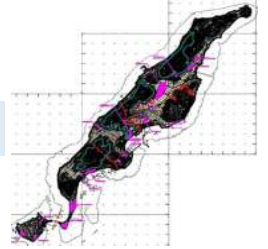


伊平屋村振興への提案書



■はじめに、

伊平屋村は「輝く里山・里海 笑顔あふれる島人」を将来像として目指していますが、沖縄県の有人島の中で最北端、最果ての村で実質的には”島チャビを感じる島”であり、2050年に現人口の半減、最も人口減少が予想されているワーストワンの村に位置付けられているのが現状であります。

これらの問題、課題の解決に向けて、可能性のある施策を提案します。

伊是名村連携

01. 伊平屋拠点とした島チャビ解消&活性化事業■

先ず、魅力と活気ある島づくり将来像として、隣村伊是名島や、同様に鹿児島県の最南端で最果ての島である与論島・沖永良部島などを繋ぐ周遊船の運航により、地域振興寄与を模索、構築する。

まさに三位一体の改革として、新たな離島振興事業を国に要請し資金調達を確保し、官民連携、各村共同運営にて各島滞在長期観光客誘致と各島民交流で活性化を目指す。、、、添付資料-1 [←クリック](#)

02. 伊平屋・伊是名架橋>海底トンネル■

伊平屋・伊是名架橋実現は国交省が前向きにも関わらず、沖縄県は県道としての位置付けにより、持続的な維持管理費負担の懸念から建設計画を避けていると言われている。

そこで、現提案の維持費のかかるPC橋或いは鋼製架橋工法ではなく、海底トンネル工法を提案する。海上構造物劣化補修費が低減され、ソーラー照明による維持費負荷減、台風襲来などの通行止めがない、景観が維持されるメリットを享受出来ます。、、、添付資料-2 [←クリック](#)

03. フェリー運航時間改訂■

現在、伊平屋フェリーの定期運航は前泊港12:20着~13:00発となっており、乗船下船時間を考慮すると停泊時間は実質20~30分となり、観光や工事資材など物流の日帰りが困難な状況である。特に建設コストに負担が大きく事業の進展を阻害する状態が多々あります。

14:00発にすることにより停泊時間1時間20分余となり大方解消されとの意見が多い。フェリー運航体制変更の課題がありますが、久米島町などの運用を参考に検討を要するものと思料します。

04. 30thムーンライトマラソン2000人ランナー開催■

「星の声援、月の伴走。」は、今や伊平屋村が誇る、類なきマラソン大会であり、多くのランナーが参加を希望している。現定員枠800人を第30回記念大会では拡大して大盛會にしたいものであります。嘗ては1,800人参加の大会もあったが体育館宿泊施設の課題があり縮小した経緯もありますが、体育館宿泊は災害時の避難場所にも利用可能であり、消防法等も数名の管理人配置などで対応可能である。

野外仮設テント増設も含めて、来島者増受け入れの対応検討してもよいでしょう！